

書 燈

須磨図書館

YA(ヤングアダルト)コーナー展示
「少年少女図書推進運動」



変わる図書館

石田 有邦

早いもので私が図書館に勤めて38年になろうとしている。この間、図書館の現場では様々な点が変わってきた。その要因はもちろん社会状況の変化に伴うものであるが、その中でもっとも大きな影響を与えたことは、IT技術の急速な進歩とその活用ということが出来ると思う。

まず、大きな変革としては、神戸市立図書館での貸出方式が従来の「一括逆ブラウズ方式」という手作業からコンピュータシステムによる貸出方式へと変更した点にある。これにより、貸出・返却手続きの大幅な時間短縮と省力化が図られた。この変革なくして、昭和55年に現在の1号館の仮開館時の大幅な利用の増加に対応できなかったといえる。次にコンピュータによるネットワーク化と検索機能の付加を挙げることが出来る。

平成元年にコンピュータシステム上の書誌データが漢字化され（それまではカナデータであった）、灘と西図書館の移転に伴い、中央図書館とのネットワーク化がなされた。その当時でさえ、外部記憶装置は家庭の冷蔵庫ぐらいの大きさの筐体で1.5GBの容量しかなく、その筐体を数個連結することでコンピュータシステムを構成していた。現在では手のなかに収まるUSBメモリでさえ128GBの容量があり4千円弱の値段で入手出来ることを考えると隔世の感がする。

コンピュータシステムだけでなく、社会状況の変化に対応するため、図書の分類も変わってきた。中央図書館には旧分類、日本十進分類法(以下NDC)3版分類、NDC8版分類が存在しているが、私が最初に配属された北区民センター図書館では、NDC7版分類が採用されていた。当時パソコンが出始めた時期で関連する図書も出版されていたが、NDC7版分類ではこのパソコンを想定していなかったため、どこに分類するか頭を悩ませた。結局のところ「418: 計算法」に分類することになった。418には、「計算尺」、「そろばん、珠算」があり、そこにパソコンの図書を分類するのは違和感を覚えたことを記憶している。現在、NDC8版分類がリリースされた以降の新しい知識や新しい概念の図書に図書館が対応するためのNDC10版分類への移行が喫緊の課題である。

と、ここまで「変わる図書館」について記述してきたが、最後に述べたい一番大事なことがある。それは、図書館において「変わらずに、これからも守って欲しい」こと。それは、図書館の役割、図書館の運営の理念である。図書館は社会教育の施設であること、国民の知る権利を保障する機関であること。これらをしっかり大切に守りつつ、現代的な課題にも柔軟に対応し、これから更に図書館が発展することを退職を間近に控えた今、祈念する。

(利用サービス課長)

読書ボランティアとの連携の促進

～スキルアップ講座の実施とボランティア受入要綱～

総務課担当課長 鎌田 寛子

利用サービス課担当係長 阪本 和子

1. 読書ボランティアスキルアップ講座の目的

神戸市立の各図書館では、それぞれいくつかのボランティアグループによるおはなし会などが開催されている。学校園や児童館等で活動するグループも多数ある。以前は子供の本に関する知識の習得や、読み聞かせやストーリーテリング等の技術の向上については、各グループの自助努力に任せていたが、平成 22 年度より市内で活動する子供読書活動推進に関わるボランティアを対象に、スキルアップ講座を開始した。

読書は、子供が確かな学力を身に付け、豊かな心を形成するためには欠かせないものである。ボランティアとして絵本の読み聞かせ等の活動をする際には、子供読書活動推進の理念を理解し、必要な知識や技術を習得し、向上することを目指してほしい。本講座開催の目的はここにあるが、さらに交流会やワークショップを通じてボランティア同士が交流し、思いを共有し、その経験を明日の活動へのモチベーションにつなげることも、もう一つの目的である。

2. これまでの実績

本講座にはこれまで9年間で、のべ1,100人以上の参加があった。毎回実施するアンケートでも概ね評価が良く、何度も参加する人も多い。本講座が根付いてきているものと考えられる。

講座の内容については、アンケートで伺った希望を取り入れながら、当館として知ってほしいこと、身に付けてほしいことも盛り込むようにしている。大きく分けると、①読み聞かせやストーリーテリング、②ブックトーク、③子供の本について、④手遊び・わらべうた、⑤交流会に分類される。中でも手遊び・わらべうたやおはなし会のプログラムづくりの講座への希望が多い。日ごろの活動の中でボランティアに携わる人々が悩んだり、もっと学びたいと思っていることがわかる。

これまで実施した講座の一覧

(平成 22 年度)

- 7.23 ブックトーク講座①(芦田悦子氏)
- 9.29 わらべうた講座(山本淳子氏)
- 10.27 読み聞かせ実践講座①(田尻美知氏)
- 11.19 ブックトーク講座②(図書館職員)
- 12.1 読み聞かせ実践講座②(太田三紀子氏)
- 3.9 読書ボランティアの今、これからを考える(脇谷邦子氏)

(平成 23 年度)

- 9.24 絵本講座(大澤百世氏)
 - 10.5 わらべうたと子どものよこび(山本淳子氏)
 - 2.3 科学読み物の楽しみ(京都科学読み物研究会)
 - 3.9 ボランティア学&交流会(脇谷邦子氏)
- (平成 24 年度)
- 9.27 赤ちゃん向けおはなし会ってどんなもの?(岩出景子氏)
 - 2.8 おはなし会のプログラムを作ろう!①(藤澤晴子氏)
 - 2.22 おはなし会のプログラムを作ろう!②(藤澤晴子氏)
- (平成 25 年度)
- 9.13 ロングセラー絵本の味わい(瀧智子氏)
 - 2.7 もっと楽しむ、わらべうた(小林純子氏)
 - 3.14 学校を知ろう!(大畑留理子氏)
- (平成 26 年度)
- 11.7 子供の目で楽しむこと、大人の目で選ぶこと(一居明子氏)
 - 1.29 絵本の先にあるもの(平松三代氏)
 - 2.26 子供と本をつなぐプログラム(グループによるおはなし会)
- (平成 27 年度)
- 10.2 おはなし会のプログラムを作ろう!(藤澤晴子氏)
 - 10.6 ストーリーテリング講座①(芦田悦子氏)
 - 12.8 ストーリーテリング講座②(芦田悦子氏)
 - 1.29 ブーケ型ブックトークに挑戦①(尾野三千代氏)
 - 2.12 ブーケ型ブックトークに挑戦②(尾野三千代氏)
 - 3.3 子供と本をつなぐプログラム(尾野三千代氏、他)
- (平成 28 年度)
- 7.15 おはなし会のプログラムを作ろう!7月①(藤澤晴子氏)
 - 7.22 おはなし会のプログラムを作ろう!7月②(藤澤晴子氏)
 - 1.13 おはなし会のプログラムを作ろう!1月①(藤澤晴子氏)
 - 1.27 おはなし会のプログラムを作ろう!1月②(藤澤晴子氏)
 - 1.19 「ブーケ型ブックトーク」に挑戦①(尾野三千代氏)
 - 2.2 「ブーケ型ブックトーク」に挑戦②(尾野三千代氏)
 - 2.23 「ブーケ型ブックトーク」に挑戦③(尾野三千代氏)
 - 3.9 子供と本をつなぐプログラム(尾野三千代氏、他)
- (平成 29 年度)
- 1.11 再確認、読み聞かせ・おはなし会の基本①(大澤百世氏)
 - 2.1 再確認、読み聞かせ・おはなし会の基本②(大澤百世氏)
 - 3.1 子供と本をつなぐプログラム 2018(脇谷邦子氏、他)
 - 3.15 ドキュメンタリー映画「子どもに本を一石井桃子の挑戦」
- (平成 30 年度)
- 10.28 大人のためのおはなし会(藤澤晴子氏)
 - 12.6 おはなし会のための手あそび・わらべうた(山本淳子氏)
 - 1.11 2018年のこどもの本紹介と展示(中央図書館職員)
 - 2.8 読書ボランティア交流会(一居明子氏、他)
- #### 3. 講座実施による効果
- 理論的なものから実践的なものまで、熟練の講師による幅広い内容の講座を実施してきた。参加者のニーズにより実施したものもあり、必ず日々の活動に活かされているものと思う。

平成 30 年度 第 16 回日本古典籍講習会を受講して

竹中 晴香

1月22日から25日に国文学研究資料館（以下、国文研）及び国立国会図書館（以下、NDL）で行われた日本古典籍講習会を受講した。日本古典籍の専門知識や整理方法の技術習得を目的とした講習会である。古典籍を扱う上で必要な知識や目録作成の実習等が行われたほか、各施設の書庫や資料を見学することができた。

古典籍（和古書）とは、原則として慶応4年以前に日本で成立した資料を指し、写本と版本に大別される。写本（鈔本、書き本ともいう）は手書きした書籍、版本（刊本ともいう）は印刷された書籍を意味する。写本は手書きなので、全く同じ資料は存在せず、版本では同じ資料に見えても版木を改めた再版である、などの特徴がある。よって、写・版の違いは目録を採るうえで重要な部分となる。そのほか、古典籍に記される様々な印影、特に蔵書印からはその書物の来歴や伝来が判明したり、表紙の色や文様からはその書物の時代や内容が推測できるなど、目録を採る際の補助となる知識も得ることができた。

目録作成の実習では、国文研所蔵の古典籍を実際に手に取り、見慣れないくずし字や資料の形態に悩みながらの実習となった。なお、目録作成の規則は、当館が参加しているNACSIS-CAT、国文研、NDL、それぞれ異なる規則を採用しており、基本的なルールは共通しているが、各規則を詳細に見ると異なるという特徴がある。

近年は資料のデジタル化も進んでいる。新日本古典籍総合データベースが平成29年10月に公開されたが、このデータベースは従来の日本古典籍総合目録データベースを引き継ぎつつ、古典籍画像を見やすく活用しやすいように工夫されている。平成30年3月現在、大学や研究機関の古典籍などから、約60万点の書誌と約8万点の画像が公開中である。スマートフォンやタブレットにも対応しているほか、画像に付与されたタグによる検索や、サムネイル表示が可能になり、研究者にとどまらず、一般向けにも利用しやすいデータベースとなっている。当館でも貴重資料デジタルアーカイブズを公開しているが、利便性の向上など、随時見直す必要があるだろう。

今回、古典籍に関する知識を得ることができ、有意義な講習会であった。館内での知識の共有とともに、当館所蔵資料の活用、さらには市民への知識提供を視野に入れて、今後の業務に活かしていきたい。

（資料係）

図書館としての大きな変化は、ボランティアと顔の見える関係が築けたということだ。それまでは、いくつものグループが各図書館や学校園、児童館などで活動していることはわかっていたが、どのグループにどんな人がいて、どんな思いで活動しているのかについてよくはわかっていなかった。講座に足を運んでもらい、話をする中で、ボランティア一人ひとりに出会うことができた。特に交流会では、複数のグループによるおはなし会の実践や、グループ紹介の機会を設けてきた。ボランティアは、他のグループの活動を見ながら、お互いに刺激を受けているようだ。講座終了後に情報交換をしている様子も見受けられる。

一方、図書館員にとっては、講座を企画する中でさまざまな講師と出会えたことが大きな収穫である。我々もまた、日々研鑽していく必要があると自覚し、子供読書活動の世界の奥深さを学ぶ機会となっている。本講座には地域図書館の子供サービス委員も参加している。ボランティアのみならず神戸市立図書館の子供サービスの充実にも繋がっていると言える。

4. 「読書ボランティア受入れ要綱」の制定

平成24年4月に「神戸市立図書館『子供等の読書推進ボランティア』受入れ要綱」を制定した。

それまで特に定めが無かった読書ボランティアの受入れ方法が、これ以降は、各館で要綱を提示しながら公募し、応募のあった中から活動グループを決定する方法となった。

図書館において子供読書活動推進に関する活動に従事しようとするボランティアは、子供読書活動について本市と考え方を共有するとともに、読み聞かせ等に関して必要な技術を持ち合わせている必要がある。本要綱ではこれを担保するため、ボランティアグループに幾つかの登録要件を設けている。公募すること、登録要件を示すことにより、ボランティアを希望する市民に、活動機会を提示している。

要綱制定以降、市内各図書館では、ボランティアによるおはなし会の実施回数が、以前よりかなり増加している。

5. 今後に向けて

ボランティアと図書館とは、子供読書活動推進においてかけがえのないパートナーである。講座実施を契機に、図書館内外での他のイベントでも互いに協力する機会が増えた。それぞれの特性や強みを活かし、子供と本を繋ぐという共通の目的に向けて進んでいく。築いてきた絆を緩めることなく、互いに敬意を払い、意見を交わすことにより、よりよい協働関係としていきたい。

ー椎名誠氏トークイベント出張資料展示ー

12月16日、長田区ふたば学舎で行われた椎名誠氏「辺境の食卓」トークイベント会場において、図書の出張展示を行った。椎名誠さんの著作、約50冊、トークテーマに合わせて「世界の食」に関する図書約50冊を展示し、70人を越える参加者の方々にご覧いただいた。（調査相談係長・大黒）

ーパネル展示「シネマ歌舞伎展」ー

＋資料展示「歌舞伎が見たい！」

12月、松竹株式会社と初連携し、シネマ歌舞伎の写真やポスター展示、公演チラシ配布等を行った。用意した図書は、歌舞伎鑑賞をより楽しむための本、歌舞伎を題材とした小説、上映中の演目に因み、「鼠小僧」が活躍する読物など約120冊。写真に見入る若い女性の姿が目立った。（調査相談係長・大黒）

ー電子図書館PRイベントの開催ー

1月20日、中央図書館エントランスで、スクリーンに電子図書を映しながらの利用説明を行った。30分程度のプログラムの繰り返しであったが、年配の方から学生まで幅広い層の30人の参加があった。当日すぐに利用登録をした人も多く、イベントの効果を感じるとともに、まだまだPRの必要があることも痛感した。（総務課担当課長・鎌田）

ー館内研修ー

【神戸市認知症研修】

神戸市社会福祉協議会登録講師による認知症研修を12月20日に実施。発症のしくみや症状など最新の知見と講師の実体験に基づく話を伺った。共感し穏やかに接することの重要性を学ぶことができた。

【図書館利用に障害のある人々へのアプローチ】

2月21日、国立国会図書館の職員による「障害者サービスに使える国立国会図書館のサービス」の解説のあと、兵庫、北及び北神分館、新長田図書館が取り組んでいる障害者（児）や在日外国人等に対するサービスについて、事例発表を行った。

（総務課担当係長・幣）

ー地域館トピックスー

【田岡和也展「兵庫景」】

兵庫図書館では、画家の田岡和也氏による兵庫の風景作品の展示「兵庫景」を開催した（11/11～12/9）。折紙と水性マーカーによる100点の作品には見た人が思い出を記した付箋や「いいね！」の星型シールが貼られ、さらに温かみを感じられるものとなった。

【YA（ヤングアダルト）コーナー展示】

須磨図書館では「少年少女図書推進運動」と題して、区内の飛松中学校の図書委員おすすめ本ポップと関連資料を展示した（1/16～2/11）。垂水図書館で

は、伊川谷北高校の図書委員作成のポップ11点をお借りし、関連資料と共に「高校生のおすすめ本」展示を行った（1/22～2/17）。力作揃いのポップは同世代からも注目され好評であった。（企画情報係・乾）

ー自動車図書館書庫の書架更新ー

昨年6月18日（月）に起きた大阪府北部地震により、自動車図書館書庫の書架が所定の位置からずれ、傾斜する等の被害を受けた。経理契約で新書架を調達、12月20日館内整理日に設置することとなった。前日にBMを車庫から出し、係職員総出で全ての本を箱詰めして車庫に置く等の作業を行った。新書架は、床面・壁面にアンカー留めし、相互に天ツナギ材で固定する等の耐震補強を施した。

（市民サービス係長・梶井）

ー平成31年度蔵書点検日程ー

中央図書館	6月3日（月）～6月17日（月）
東灘図書館	5月29日（水）～6月3日（月）
灘図書館	5月15日（水）～5月20日（月）
三宮図書館	5月22日（水）～5月27日（月）
兵庫図書館	6月17日（月）～6月24日（月）
北図書館	6月12日（水）～6月17日（月）
北神分館	3月25日（月）～4月22日（月） 移転準備のため休館中に点検
新長田図書館	5月20日（月）～5月27日（月）
須磨図書館	5月13日（月）～5月20日（月）
垂水図書館	5月29日（水）～6月3日（月）
西図書館	6月5日（水）～6月10日（月）

ー手帳ー

会議	12.21 神戸市立図書館図書館協議会（第6期）協議会委員の交代
	2.1 KEMS 確認審査
	2.15 近畿公共図書館協議会理事会
	2.28 予算特別委員会局別審査
	3.12 兵庫県立図書館図書館協議会
	3.15 神戸市立図書館図書館協議会
	3.26 中央図書館職員安全衛生委員会
研修	2.5-2.8 文部科学省地区別研修（奈良）
その他	12.1-12.27 マナーアップキャンペーン
	12.2 市民満足度調査（全館）
	12.12 神戸市立図書館条例改正（北神図書館）
	12.13 三宮・西図書館基本計画の策定（記者発表）
	1.15 六甲道周辺の復元模型受贈（灘図書館）
	1.17 非常招集訓練・神戸市シェイクアウト訓練
	1.25 返却ポスト供用開始（JR灘駅、地下鉄名谷駅、JR山陽垂水駅前）
	1.25 書籍消毒機供用開始（須磨図書館）
	2.21 消防訓練